

自己を見つめ、多様な考えに触れながら道徳的価値について考える授業を目指して

—多面的・多角的に考えさせる発問の工夫を通して—

女川町立女川中学校 及川 育美

1 授業づくりに関わる課題

本学級は、何事に対しても積極的に取り組むことができ、自ら考えて行動する生徒が多い。また、規範意識も高く、互いに思いやりを持って学校生活を送ることができる。一方で、単学級であるためクラス替えがなく、これまでの友人の考え方や言動によって、生徒同士が偏った見方をしてしまう様子が見られる。6月に質問紙による道徳科の授業についての意識調査を実施した。「道徳科の授業で、自分の考えを持って取り組んでいる」に当てはまると回答した生徒は4割だった。「教科書の内容を理解し自分のこととして考えている」に当てはまると回答した生徒は3割となった。これらの結果から、教材の理解が不十分なために、道徳的価値について自分の考えを深めさせられていないのではないかと考えられる。また、自己を見つめさせることができていないため、多様な価値と向き合うことができておらず、よりよく生きるためにどのようにしたらよいのか考えを深められずにいるのではないかと考えられる。生徒がこれからの社会をよりよく生きていくために、道徳科の授業を通して、自分と向き合い道徳的価値について深く考えさせたい。そして、多様に存在する価値と触れることでより多面的・多角的に物事を考える力を身に付けさせ、より柔軟な考え方や感じ方ができる生徒の育成を目指したいと考えた。

2 研究の内容と方法

本研究では、道徳的価値について主体的に考え、多様な価値の捉え方が存在することに気づき、それについて自分と向き合い道徳的価値について深く考えさせる。また、多様な考えに触れ、自分にはないものに気付かせたり、自分の考えを見つめ直したりすることを通して、よりよい生き方について考えさせる授業を目指したい。そこで本研究では、発問と板書の工夫の手立てを講じることにした。

3 I期の取組

授業実践 I

主題名 歩調を合わせて
「B-(9)相互理解、寛容」
教材名 「遠足で学んだこと」
(東京書籍 新しい道徳2)

(1) 多様な考えを引き出す発問の工夫について

導入場面では、事前アンケートを用いて問題意識を持たせ、道徳的価値について方向付けを行い、価値を追求していこうとする意欲を高めた。展開場面では、教材の内容を十分に理解できず、価値について深く考えられていない実態から「段階を追った発問」を行った。前半は登場人物に焦点を当て、順を追って心情や行動から捉えさせる発問を行い、後半は価値に迫る発問の構成とした。教材の問題点を捉え考える際、登場人物の心情や行動については見えるため読み取りやすい。しかし、価値に迫る際には、事象が見えにくいと考えることが難しくなってしまうことがある。段階を追った発問により、徐々に道徳的価値に迫ることができ、学級全体で共有することができた。教材の理解が図れたことによって、藤野君と吉川君の考え方に触れた発問では、対立する両者の主張を捉えることができ、互いに見えなかった心情や行動について多面的・多角的に考えることができた。更に道徳的価値を深めるために、登場人物に自我関与させる発問をし、自分との関わりを持たせたことにより、多様な考えに気付かせることができた。終末場面では、これまで追求した道徳的価値を確認し「自己の生き方についての発問」を行い、今後の道徳的実践への意欲を高めた。

(2) 生徒の考えを可視化する板書の工夫

自分の考えや多様な考えを黒板に可視化したことで、ねらいとする道徳的価値について考えを整理し、より深く考えさせることにした。視覚的に捉えさせることで内容の理解を促し、多様な考えを比較するなど、考えを広げたり深めたりすることができた。板書の工夫はⅠ期とⅡ期を通じて行った(図1)。

① 導入時の生徒の考えを提示

導入時の考えを提示しておくことで、展開後段の価値に関する考えをより深め、変化を捉えやすくした。

② 挿絵の活用

登場人物の挿絵を活用し、その近くに生徒の考えを板書することによって、教材の内容を理解させ具体的に捉えさせた。

③ 両者の考えの比較

登場人物の考え方を板書し、両者を比較することで、一面的に捉えるのではなく、多面的・多角的な見方へと発展させた。

④ 価値の整理

考えを整理し、ねらいとする道徳的価値について

自分の考えを深めた。

(3) 成果と課題(成果○ 課題●)

① 発問について

- 事前アンケートを導入で活用したことで、生徒の価値の方向付けにつながり、内容を理解して取り組むことができた。展開後段において再び導入の発問に触れ、より道徳的価値について深く考えることにつながった。
- 生徒は段階を追った発問により、登場人物の行動から心情を捉えることができた。また、ワークシートの内容からほぼ全員の生徒が自分の考えを持ち授業に臨むことができたことがうかがえた。
- 段階を追った発問により、ねらいとした道徳的価値について自分の考えを整理して書くことができた。
- 事前アンケートの活用の際に、教師の取り上げ方が浅かった。更に生徒に問い掛けながら捉えさせることで、より効果的に活用できた。
- 全体的に発問が多過ぎたことによって、展開後段の時間が不足した。
- 発問をしてから教師の問い掛けまでが早過ぎた。生徒が思考する時間が短く、深められない場面があった。

② 板書について

- 聞き取った生徒の考えから要点を絞って板書したことにより、生徒たちが考えを整理して捉えることができた。
- 藤野君と吉川君の両者の考えを板書する際に、挿絵とともに生徒の考えを左右に示したことで、考えが整理され、多様な見方や考え方に気が付

くことができた。

- 生徒は自分の生活場面においてもあり得ることだと板書を見て実感し、自我関与してワークシートに振り返りを書くことができた。
- 構造化した板書は意識できたが、色分けや矢印などを効果的に取り入れ考えを深めさせる工夫が足りなかった。
- 生徒の考えを教師が丁寧に聞き返し確かめながら板書したことで、時間を掛け過ぎてしまった。

4 II期の取組

授業実践Ⅰの課題を受けて、Ⅱ期ではより多面的・多角的に捉える発問と主体的に話し合い、考えを深める工夫を意識して実践に当たった。

授業実践Ⅱ

主題名 よりよい社会のために

「C-(10) 遵法精神、公德心」

教材名 「宝塚方面行きー西宮北口駅」

(東京書籍 新しい道徳2)

(1) 多様な立場や条件について考えさせる発問の工夫

教材の登場人物の行動や理由を捉え、多様な立場や条件から考えさせる発問により多面的・多角的に考えられるようにした。教材の一場面を取り上げ、周囲の状況や人物の心情を意識させることによって、見えていなかった見方や考え方に触れさせることにつながると考えた。本時では、悪気がなく電車内で座席を取るミサの行動に、おじいさんが指摘した場面に着目させた。そのやり取りから公共のマナーを

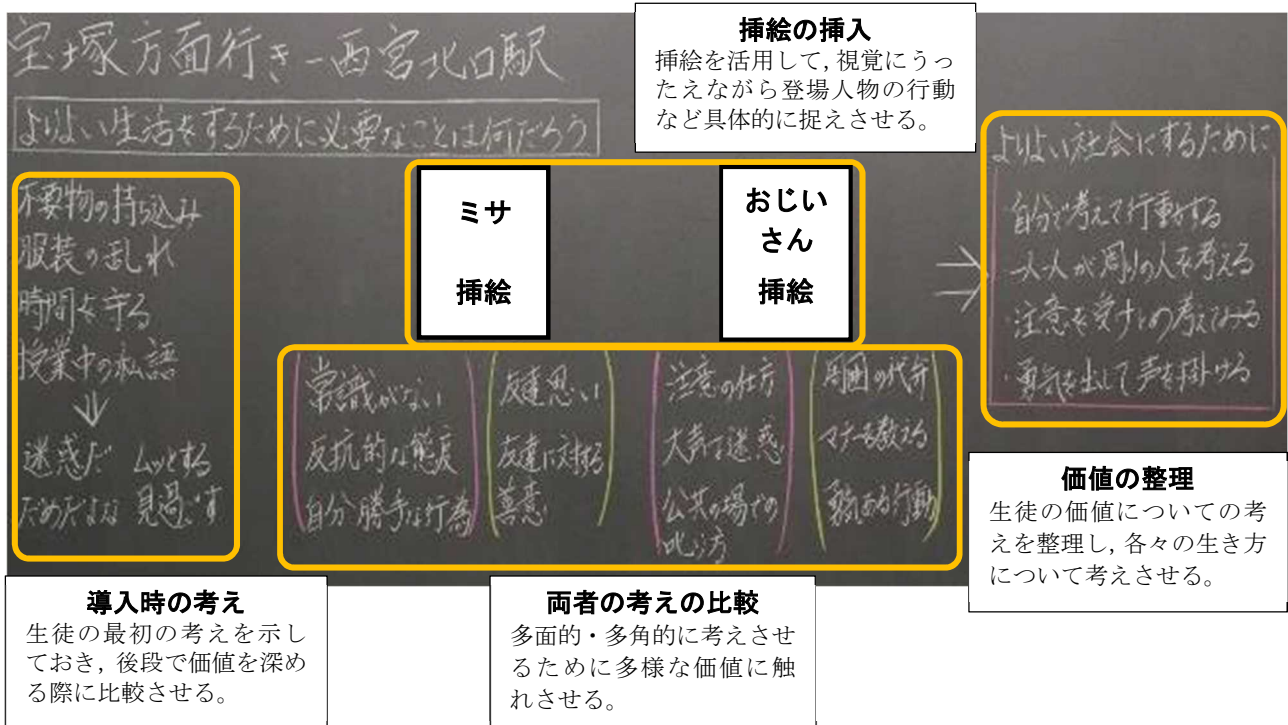


図1 生徒の価値を捉えやすくするための板書の工夫 (Ⅱ期実践板書)

守ることや自分の行動にいかに関心を持つことで、よりよい社会につながるのかを考えさせた。ミサの行動は表面的には迷惑に見えるが、立場や条件を改めて確認して考えさせる発問を行ったことで「友人のために置いているのだから友人思いの人だ」「人がいなくて空いていたら迷惑にはならなかったかも」など、捉え方が異なることを実感していた。また、おじいさんの行動に関しても「注意するのはいいが、大声で怒鳴るのは逆に迷惑だと思う」「言い方を変えれば、相手も素直に聞き受けてくれる」など多様な考えに触れさせる授業を展開することができた。

(2) 生徒主体の活動を取り入れ、多くの考えを交流させる展開の工夫

I期の授業を通して、自分の考えを持って取り組む生徒が多く見られるようになった。そこで、生徒同士で話し合うことで、更に道徳的価値について考えられる展開が工夫できると考えた。本時では、付箋に自分の考えを書き、考えをしっかりと持たせた上で、グループでの話し合いを行い、道徳的価値についてより深く考えさせることにした。自分の考えを持って話し合いに臨んだことで、自信を持って話し合いを行うことができた。また、付箋を活用したことで、多様な考えが可視化された。更にそれを基に生徒が多様な考えを整理しながら分類し(図2)、話し合いが展開されたことにより効果的に交流ができ、道徳的価値について考えを深めることができた。話し合い中には、相手の考えを受け止めたことで、自分の考えが変わり、途中で付箋に追記する生徒の姿も見られた。自分の考えを相手に伝え、相手の考えも聞くことは、生徒同士の主体的な交流となり、多面的・多角的に捉え自分の考えを広げたり、深めたりすることにつながる。このような活動を繰り返し行い、生徒同士の話し合いを、更に活性化させたいと考える。

(3) 成果と課題(成果○ 課題●)

① 発問について

- 多様な立場や条件から考えさせる発問の際に、登場人物の心情から、表面に見える部分と見えない部分があることに気が付き、より多面的・多角的に考えることができた。
- 両者の対応の仕方に着目したことで、公共のマナーについて、どのように対応していくことが求められるのか、自身の実生活と照らし合わせる内容をワークシートに書くことができた。
- 展開後段の教材と日常生活をつなぐ発問の際に、十分に時間を掛けられず、更に道徳的価値を深める必要があった。
- 生徒の考えを引き出すために、複数の問い返しを準備したが、同調する内容の発問が多かった。生徒の考えをゆさぶるような問い返しがあれば、更に道徳的価値について考えが深まった。

② 考えの交流について

- 最初に自分で考える時間を十分に取、それ

をグループで話し合わせたことで、自分の考えや他人の考えを交流し、道徳的価値について考えを深めることができた。その後、学級全体で考えを共有し、終末場面で自己の生き方について更に自分の考えを深めた。

- 生徒は、付箋を活用したことで、自分の考えを整理してグループ内で自信を持って話し合うことができた。また、多様な考えが書かれた付箋をグループ内で分類したことで、話し合いが活発に行われ、多面的・多角的に考えることができた。
- 話し合いを行ったことによって、多様な考えに触れることができ、途中で自分の考えを書き替えた生徒の姿から、自分とは異なる友人の考えを受け止めたことがうかがえた。

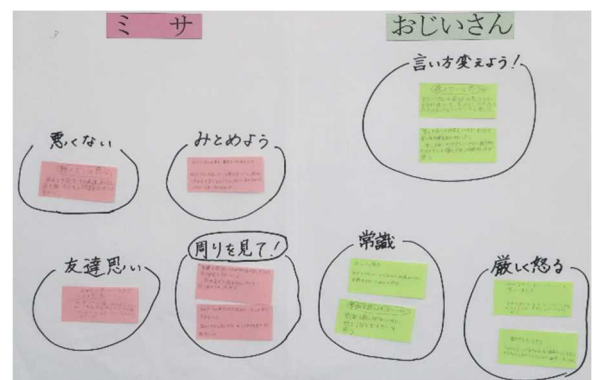


図2 付箋を分類し、多様な道徳的価値について考えた

- グループでの話し合いが全体的に「伝えるだけ」になってしまい、そこから対話をして内容を深めるところまでには至っていないグループも見られた。
- 全体で考えたことを共有した際に、教師側の説明が多くなり、他のグループの考えに対して生徒のつぶやきを吸い上げ広げる工夫が必要だと感じた。

5 まとめ

(1) 研究の成果

道徳科の授業を通して、生徒が主体的に道徳的価値について考える授業を意識して実践を行った。その結果、いくつかの変化が見て取れた。一つ目に「道徳の時間に自分の考えを持って取り組む生徒の増加」である(図3)。これまでは、考えさせたい道徳的価値にばかり焦点を当て過ぎたため、教材の問題点などを生徒が十分に理解できずに考えを深められていなかった。そこで本年度は、段階を追って教材の理解を図った発問や終末場面の自己の生き方についての発問を通してなど、自己を見つめることができ自らの考えを持ててきたのではないかと考える。多面的・多角的に捉えさせることを意識した発問の際に

は、個人で考える時間とより多くの考えと触れ合うペアやグループでの交流の時間を設けた。生徒たちは自分の考えを相手に伝えながら、相手の考えにも触れ多様な道徳的価値について考えを深めたことにより、自ら考えることができた実感しているのではないかと考えられる。二つ目に「道徳の時間を通して、自分の考えが変わったと実感している生徒の増加」である(図4)。最もこの変化の要因に関係するのが、友人との交流であると考えられる。多様な考えと触れ合うことで、これまでの自分の考え方と比較して気が付くことができ、それを変化として実感しているのだと考える。もちろん、基になるのは道徳的価値について、個人で向き合い、自分の考えを持たせることが必要である。また、本学級の友人の考え方や言動によって、偏った見方をしてしまうという課題についても、多様な考えと触れ合う授業を展開したことで、相手の考えを受け止める姿勢が身に付き、変化につながってきていることもうかがえる。あわせて、教師が「それはどういうことなのか詳しく教えて」「逆に考えたらどうなるかな」など、問い返しを行い、学級全体で多様な考え方ができる雰囲気づくりも変化の要因だと考える。三つ目に「授業で学んだことを今後の生活に生かそうとする意識の向上」である。学級の8割の生徒が生かそうとしている結果から、生徒が主体的にこれまでの授業に取り組んだことで、道徳的価値についての自覚と自己の生き方についての考えを深めたからではないかと考える。今後も生徒自身が道徳的成長を実感し、学習意欲の向上につなげていくためにも、生徒の道徳的なよさを教師が認め、励まし、伸ばすための評価を大切にしていきたいと考える。また、身近なことを発問に取り入れた授業では、より道徳的価値について考えを深め、今後の生活に生かそうとする姿勢が見られた(図5)。

(2) 今後の課題

① 価値を深める問い返しの工夫

これまでの実践から、生徒が価値について考えようとする姿勢が身に付いてきている様子うかがえる。今後は、より道徳的価値について考え深めるための効果的な問い返しを取り入れた授業を展開したい。生徒の考えを認めながら問い続けることによって、生徒自身が自分の考えの深まりに気付く手掛かりとなる。また、学級全体で考えることでより多くの考えを引き出し、道徳的価値について考えさせていきたい。

② 充実した話し合い活動の工夫

多様な考えに触れることで、道徳的価値を理解すると同時に相手を理解して、更に自らの考えを深めることにもつながる。そのためにも、話し合い活動の工夫が大切であると考え。今後は、話し合いの決まり事を提示するなど、自分の考えを伝え、他者の考

えを聞き取り、それに対して互いに考え深め合うことができる話し合い活動を目指したい。

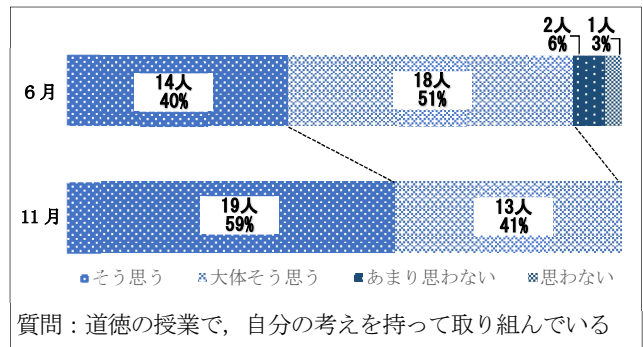


図3 授業アンケート結果①

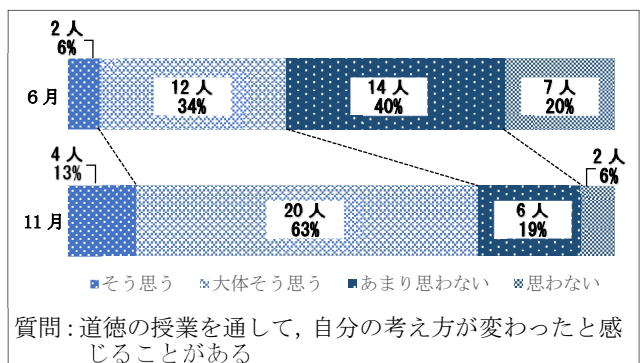


図4 授業アンケート結果②

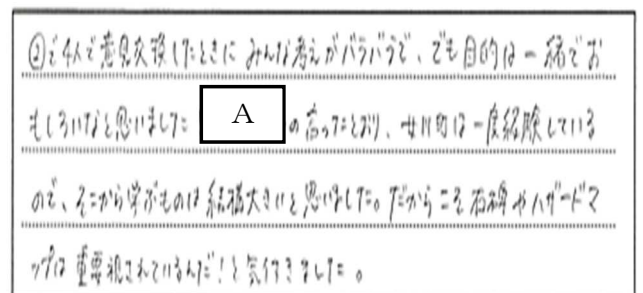


図5 実生活に生かそうと振り返った生徒の感想
(「田老の生徒が伝えたもの」A-(2)節度、節制)

【引用・参考文献】

- 宮城県総合教育センター：令和元年度専門研究道徳教育研究グループ サポートブック 2019 令和元年度 専門研究 道徳教育研究グループ
- 明治図書出版：考え、議論する道徳をつくる 新発問パターン大全集 2019
- 明治図書出版：道徳教育 10月号 2019
- 明治図書出版：道徳教育 4月号 2020

【図表等の許諾について】

実践授業前後に実施した意識調査の結果の掲載にあたり、所属校校長から使用許諾を得た。

図5は、授業実践の中で生徒が記入したワークシートの一部である。氏名を伏せて掲載することとし、生徒の保護者から使用許諾を得た。